

血管の病気知ろう

医師ら奈良で市民公開講座

予防や治療詳しく

県内の医師らでつくる「県の静脈とリンパの病気を考える会」が主催する、市民公開講座「知って得する！血管のはなし」動脈瘤・下肢静脈瘤・エコノミークラス症候群・リンパ浮腫」が15日、奈良



圧迫療法の有効性について解説する今井会長
＝15日、奈良市登大路町の県文化会館

市登大路町の県文化会館で開かれ、約330人が参加、熱心に聴講した。天理よろづ相談所病院の山中一朗医師の進行で、県総合医療センターの仁科健医師、県立医科大学付属病院の

多林伸起医師、西の京病院の今井崇裕医師、いしかわ治療室の石川理恵医師らが講演。それぞれその病気の概要や治療法、予防法などを解説した。同会の会長を務める今井医師は、深部静脈

血栓症（エコノミークラス症候群）などの予防や治療に有効な圧迫療法を解説。「弾性ストッキングを使用すれば、自分一人で普段から気をつけることができる。ぜひ活用して」と呼び掛けた。

この日は、県特産の靴下の弾性ストッキングとしての活用を研究している帝塚山大学（奈良市、蓮花一己学長）の熊谷礼子教授とゼミ生4人も参加。

同ゼミの3年生、好村早祐美さん（20）は「ネーミングや販売方法などを検討中です。ソックスで血栓予防ができることで、多くの人の助けになれば」と意欲を語った。